

学生大使 実施報告書

氏名：五十嵐清佳

学部・学科（コース）・学年：地域教育文化学部・地域教育文化学科（文化創生コース）・1年

派遣先大学：ガジャマダ大学

派遣期間：2023/8/29～2023/9/13

1 日本語教室での活動内容

日本語教室では午前と午後の1日2回、90分の授業を行った。1回の授業で担当する生徒は1～2人であったため、個々の水準や要望に沿った授業を展開することができたと思う。90分間で飽きが来ないように、書きの練習と会話を組み合わせる、アウトプットの時間を設けるなどといった工夫も行った。さらに、生徒によって会話は上手だがひらがなが苦手、ひらがなは読めるが単語が分からない、といった違いがあったため、毎回の授業の初めでその日の目標や学習内容をしっかりと確認することも心掛けた。

幅広いレベルの生徒が見受けられたが、私が担当した生徒の多くはひらがなの読み書きや簡単な文法を勉強していた。「す」と「つ」の聞き分けや助詞の使い方等が難しいようで、例文を用いながら一緒に練習した。毎回レベルの高い生徒は漢字や敬語を勉強しており、その能力の高さにしばしば驚かされた。また、どの生徒も積極的にコミュニケーションをとろうとしてくれたため、日本語教室を通じて親交を深めることができ非常に楽しかった。日本語についてだけではなく、ときにはお互いの国の食べ物や文化について話し、逆にインドネシア語を教えてもらうこともあった。日本の冬について話した際には、私が持っていた雪の動画を見せると喜んでくれた。

最終日の日本語教室では、習字や折り紙もした。完成した作品を手には、嬉しそうな表情で写真にうつる姿を見て、こちらまで幸せな気持ちになった。なにより、多くの生徒が日本の文化に興味を持ち、挑戦してくれたことに感動した。

2 日本語教室以外での交流活動

放課後や休日はサポート役の皆さんや日本語クラスで仲良くなった友達と過ごした。圧巻の迫力を見せるボロボドゥール、夕日が綺麗な海、お洒落なジェラート屋さん、日本語の曲がたくさんあったカラオケ、バイクに乗せて頂いたときに見た夜の街並み、ナシゴレンをはじめとする美味しいご飯、どれも強く心に残っている。きっとこれらの記憶は一生忘れることができないだろう。

2週目の休日はプランテーション現地実習にも参加した。深夜の長時間移動やなれない場所での宿泊に少々疲れたが、日本では見られない広大なプランテーションの景色やトラックの荷台に乗っての移動は良い意味で刺激的であり、私にとって有意義な経験だった。さらに、プランテーションではガジャマダ大学に留学生として来ている方たちとも交流することができ、良い思い出ができた。残念ながらここで現地の学生と関わる機会は少なかったが、みんな明るく、はつらつとした印象を受けた。

交流活動を通じて感じたのは、インドネシアの皆さんの心のあたたかさだ。一緒に海やカラオケ

【学生大使 実施報告書】

ではしゃいだり、遅い時間までお話ししてくれたり、インドネシア語を通訳してくれたり、絶対に疲れているはずなのにいつも優しく丁寧に接してくれた。サポート役の皆さんをはじめ、2週間関わってくれた全ての方に感謝したい。

3 参加目標への達成度と努力した内容

このプログラムへの参加にあたって私が立てていた目標は「コミュニケーション能力の向上」と「広い視野の獲得」の2つだ。

まず、前者の達成度は80%程である。コミュニケーションに関して大きな学びを得ることができたが、まだ努力したいと思う部分も残っているからだ。私が渡航前に感じていたコミュニケーションに関する不安はおもに英語であった。しかし、実際に現地へ行き、英語力よりも会話における積極性の欠如を実感した。もちろん英語力は必要だが、伝えようとする気持ちは、ときに正確な文法力や単語力にも勝ると知った。また、表情やジェスチャーによるノンバーバルコミュニケーションの可能性も大いに感じた。日本語という言語を教えるプログラムを通じ、図らずも非言語の力に触れることとなった。この2週間、多くの人と話し、努力することができたが、ときには苦勞したりもどかしさを感じたりする場面もあったため、今後もコミュニケーション能力の向上を目標としていきたいと思った。

次に、後者の達成度はほぼ100%といえると思う。私はこの目標のために、初めてのことにたくさん挑戦するという努力をした。その結果、以前よりも多角的に物事を見られるようになったのではないかと感じる。日本とインドネシアの間には、宗教や文化の点でたくさんの差異がある。しかし、そこにいる人間自体は何も変わらないと思った。ものの考え方にはむしろ共通点のほうが多く感じられた。差異と共にある共通点に触れられたからこそ、全ての驚きや発見を受け入れ、自身の視野を広げる養分にすることができたのだと思う。日本での「当たり前」が当たり前ではないインドネシアでの生活は、私の価値観を大きく変えてくれた。

4 プログラムに参加した感想

たくさんのバイクや甘いお茶、シャワーにトイレ、時間感覚の違いなど、初めは違和感に思えたことも、最後には名残惜しく思うほど慣れてしまった自分に驚いた。ガジャマダ大学の活気あふれる雰囲気やインドネシアの皆さんの思いやりに触れながら、濃密な2週間を過ごすことができたことを幸せに思う。勇気を出して参加してよかった、そしてまた参加したいと心から思えるプログラムだった。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

ガジャマダ大学の皆さんが意欲的に日本語を勉強する姿とその学習能力の高さに触発され、私も言語学習により一層力を入れていきたいと思った。コミュニケーション能力を向上させる努力も怠らず、より多くの人と関わり、会話し、良い関係を築いていけるようになりたい。

また、今回の経験を経て異文化への関心がより高まったため、今後も国際交流や海外渡航の機会があれば積極的に挑戦したいと思う。そして、さらに新たな驚きや発見を得ることで自身の視野を広げ、知識と柔軟性をもって世界を見ることができるようになりたい。

【学生大使 実施報告書】



ティープランテーションにて



海！

【学生大使 実施報告書】



日本語教室